

遊休農地の解消に向けて

河合町農業委員会

1. 河合町の農業の概要

奈良盆地を流れる川のほとんどが、この河合の地で合流する。川が合うところから「河合町」という町名の由来がある。古くより大和川の舟運の発達とともに、文化の結節地として栄えた地域である。幸いにも河合町には、「田舎」の部分がまだまだ存在している。

2. 農業委員会の取り組み

①具体的な取り組みの内容

河合町農業委員会では、遊休農地の有効利活用を図ることを目的にした景観形成作物の作付けを推進している。環境保全をモットーに、景観形成作物の中でも菜の花を栽培することにより、資源循環型社会の実現を目指し、特に、菜種油などの食用とバイオ燃料の実用化に向けた取り組みを目指している。

また、同町においても、農業後継者不足が囁かれる中、集落営農組織の確立に向けた取り組みも大きな課題となっている。その中でも、地域における世代交代に円滑に対応し、将来の水田の維持・有効活用を図るため、青年部会を組織し、水田営農の担い手として、農作業受託や遊休農地の解消に努めつつある。

さらに、2010年には、平城遷都1300年祭が開催され、河合町においても、県内外からの観光客が多数見込まれることから、農産物の販売や農業体験などのイベントを開催することにより、地域の活性化につなげていきたいと考えている。

②今後の展望

河合町農業委員会は、「各地域の景観保全を行うことにより、子どもからお年寄りまでが、笑顔が絶えない明るい地域づくりに貢献したい。」と今後の取り組みに夢を膨らませている。



